

NSPICE Conference 2018 開催

1. Conference 概要

2018年3月2日(金)、ウインクあいち（愛知県産業労働センター）において、NSPICE Conference 2018を開催いたしました。本カンファレンスは第二回目で、今年度のテーマは、～SPICEを改善に活用しよう～で、海外からの参加を含め、5テーマの発表となりました。

基調講演は、国際アセッサ－認証機構（intacs）／ドイツ自動車工業会 品質管理センター（VDA QMC）と国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構（JAXA）をお招きし、ご講演をいただきました。参加者は103名、情報交換会にも56名の方が参加し、リラックスした雰囲気の中で親交が深まりました。

本カンファレンスが成功裏に進められたのも、プログラム委員やボランティアの方たちの支援によるものと感謝しております。

2. 発表内容

2.1 基調講演

K-1 intacs と Automotive SPICE の将来 – 来たる変更と挑戦：SPICE アセッサ－コミュニティに向けて –
＜英語による発表（逐次通訳付）＞

国際アセッサ－認証機構（intacs）

Bernhard Sechser 氏

国際アセッサ－認証機構（intacs）／ドイツ自動車工業会 品質管理センター（VDA QMC）

Jan Morenzin 氏



K-2 宇宙分野における安心・安全なソフトウェア開発の統合アプローチと更なる挑戦

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

片平 真史 氏



2.2 一般発表

A-1 NSPICE トレーサビリティ研究会 活動成果報告

－ トレーサビリティ戦略の策定 －

株式会社 DTS インサイト

仮屋 義明 氏

トレーサビリティ管理プロセスの目的を明確化し、ユースケースを検討して課題解決に臨むという研究成果の発表であった。今回は、開発の入口である仕様のトレーサにフォーカスを当てているが、仕事の成果にとって、入口である仕様は非常に重要であり、品質確保のための重要な発表であった。



A-2 Automotive SPICE Experiences

– Based on Assessment Results in Korea –

<英語による発表>

C&BIS Corporation

Young-Jin Cho 氏

韓国の Automotive SPICE CL2, CL3 の結果に基づいた実力についての発表であった。韓国では、ドイツの結果との共通性が見られものの、構成管理プロセスは逆に弱みのあるプロセスであることが分かったと述べており、韓国の Automotive SPICE の状況を知ることができた。

Automotive SPICE の全体的な関連について述べており、有用な発表であった。



A-3 プロジェクト運営におけるシステム部署/ハード

ウェア部署/ソフトウェア部署の業務 I/F 改善

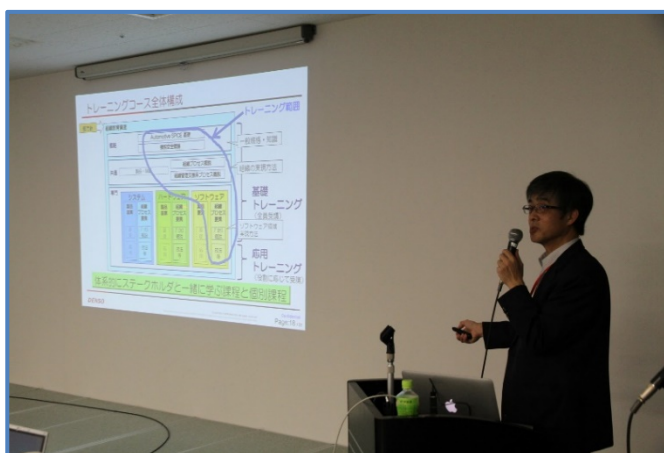
– ステークホルダの I/F と人材育成 –

株式会社デンソー

山内 一資 氏

プロジェクトの解決したい課題に対して、活動の 4 つの柱（設計書、プロセス、人材、開発環境/ツール）を据えて、取り組んだ。ポイントは、必要性を明確にする、前提を明確にする、全体を見渡すプロセスの構造を明確にすることで解決に取り組んだ。それを実現するためにトレーニングコースを準備してプロセストレーニングを実施した。上位職はステーク

ホルダとの関係や共同作業・分担作業を鳥瞰的に見るようになり、エンジニアは設計やテストの効率化、要件・設計の一貫性を意識して仕事を行うようになったという効果が出ており、興味深い発表であった。



A-4 構築した標準プロセスを現場に定着させた工夫

株式会社デンソークリエイト

池永 直樹 氏

プロセスの必要性・有用性が現場で理解されず、構築した標準プロセスが現場で活用されない状況を打破するために、プロセスを理解するためのトレーニングを実施して課題解決を図った事例発表であった。

特に有効であると思われるのは、「プロセス FMEA」であり、プロセスの必要性を実感するために、失敗を疑似体験する

というものである。具体的には、プロセスの失敗モードを想定して、影響を分析することによって、失敗を疑似体験して、プロセスの必要性を実感することができるという新規性のある発表であった。



A-5 日本 SPICE ネットワーク 研究会報告
“Agile in Automotive 研究会”
－ Agile は車載開発で活かせるのか？
自律改善をどう実現するのか！ －
パナソニック株式会社
安倍 秀二 氏

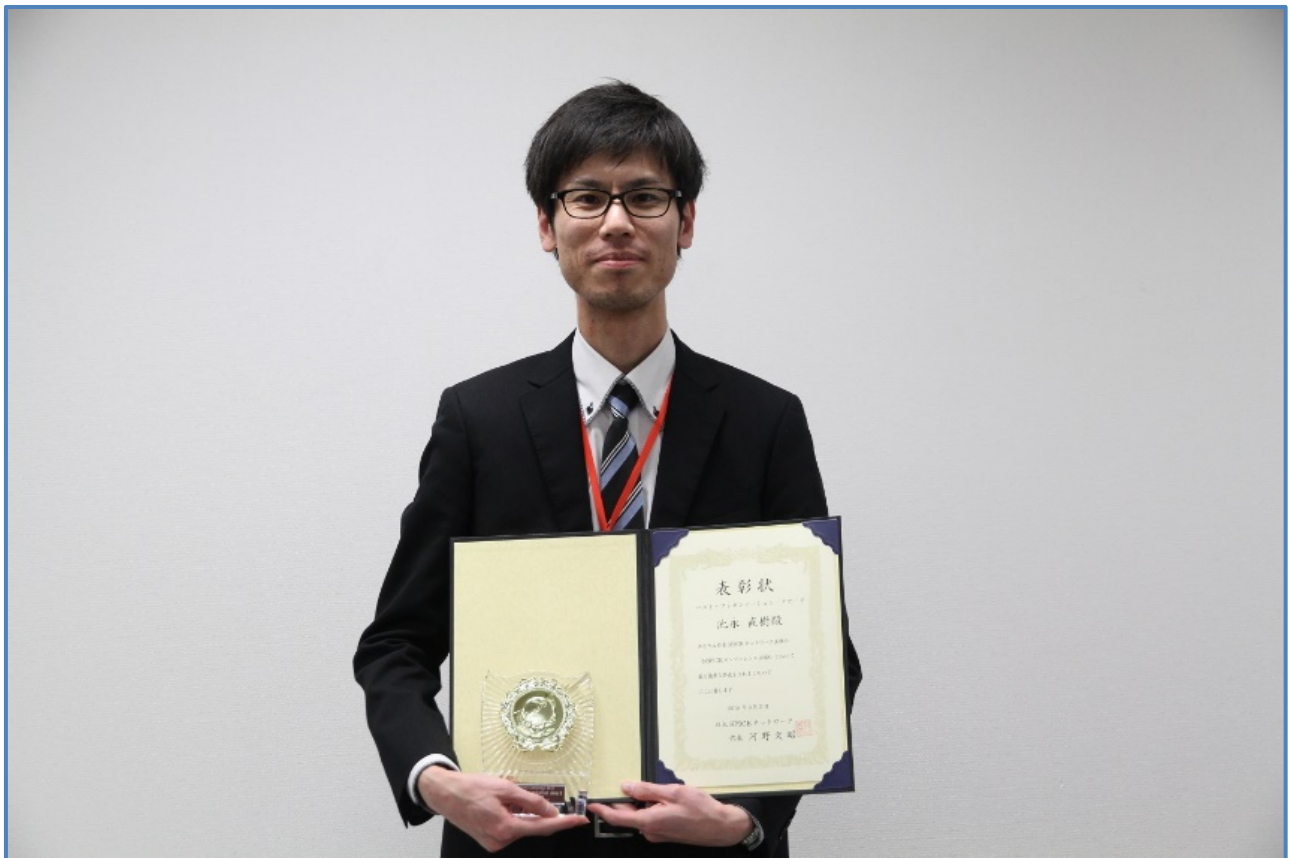


アジャイルの現状を掴み、世間で言われているアジャイルの誤解を解き、スタディとして、アジャイルの技法とセレモニーについての説明があり、Automotive SPICE へのマッピングを実施して、アジャイルの車載開発への適用可能性について述べており、大変参考となる発表であった。

3. 表彰 (Best Presentation Award)

「構築した標準プロセスを現場に定着させた工夫」
株式会社 デンソークリエイト
池永 直樹 氏

参加者からのアンケート結果に基づく審査の結果、一般発表 5 件の中から Best Presentation Award を選定し、表彰しました。



4. 今後に向けて

皆様からいただいた意見や情報は、運営委員会が今後の活動を計画するために、有効に活用していきます。日本 SPICE ネットワークを継続的に発展させるため、アンケート結果を参考にし、活動範囲を拡大し、改善点は改善して、有意義な活動にしていきたいと考えております。

来年も是非カンファレンス参加をご検討いただくとともに、プログラム委員やボランティア等にご興味をお持ちの方は、募集が開始されましたら事務局までお気軽にご連絡をお寄せください。



5. 情報交換会

基調講演者も交えて活発な情報交換が行われました。

